

詩のぐるり



意図

詩に対して、「難しい」と抵抗を感じる人や、詩のハードルを高く感じている人は多い。それは多くの人が詩の良さを実感する前に、詩に使われている技法や作者の人生を知り、詩の意味を理解することが「詩を鑑賞する」ことだと思い込んでしまっているからだと考えられる。

しかし詩に惹かれる時とは、「なぜかわからないがグッとくる」「妙にことばが引っかかる」というような、意味の理解により解釈ができた時ではなく、ことばの感触を漠然と感じる時なのだと思う。そしてそのようにして惹かれたことばは、その人の人生に寄り添い、支えてくれるものになる。意味の理解をしなければいけないと思い込んでいるがために、最初から詩を遠ざけてしまうのはもったいない。

そこで、手話で表現された詩をカフェで鑑賞する企画「詩のぐるり」を提案する。この企画で詩を感覚的に捉える機会を提供し、詩への抵抗感を払拭することを目指す。

鑑賞の手段に手話を選んだ理由は、手話は表情や手の動きによって、日本語よりもダイレクトに感情が伝わる言語だと考えたからである。詩の微妙なニュアンスを視覚を通して伝えることで、詩のもつ心的イメージを感覚で直接捉えられると考えた。

手話で表現された詩を鑑賞することで、感覚的に詩を体験し、今まで意味に囚われていた人に新しい詩の見方をもたらすことができると考える。

内容

場所 全国の地域のカフェ

期間 ひとつの都道府県につき一ヶ月程度

宣伝方法 周辺でのポスター掲示・チラシの配布、各種SNS、
特設Webサイトの開設

カフェでの実施内容

1. 店内のテーブル、椅子、壁など 座っているときに見える位置に詩を展示

詩はカフェのコンセプト・雰囲気にあったものを三つ程度選ぶ。
また、地域出身の詩人にそのカフェを題材に詩作を依頼し、展示する。

2. 展示されている詩の手話版を鑑賞できる 「詩のメニュー」を各テーブルに置く

詩を手話に翻訳したものを動画に撮り、詩のぐるりYouTubeに
限定公開したもののリンクをQRコード化する。
詩のタイトル、作者名、動画のQRコードが載ったものを
「詩のメニュー」として、カフェのメニューと一緒に置く。

3. 詩とそのQRコードの載ったノベルティを配布

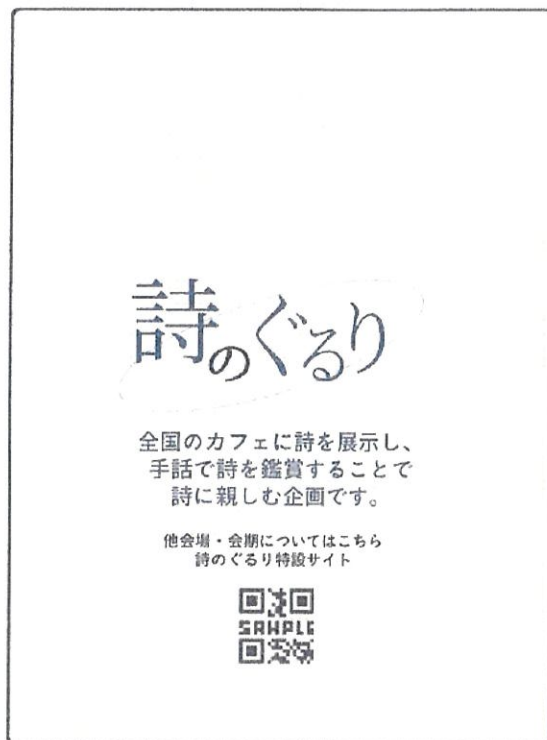
表面に詩のぐるりのロゴ、裏面にQRコードと、詩の一部が載った紙を
ノベルティとして配布する。

詩のメニュー概要

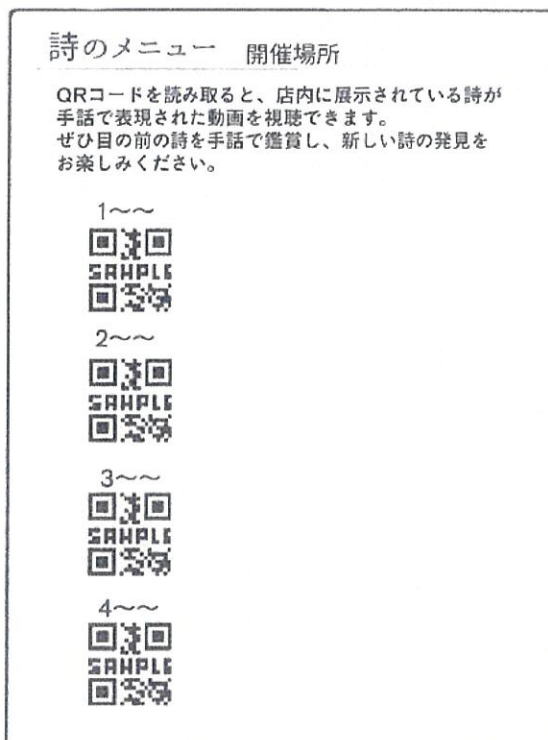
表:ロゴ、企画の概要、WebサイトのQRコード

裏:各店舗に展示された詩、その手話動画のQRコード

これらを掲載した
A5サイズのもの。



表

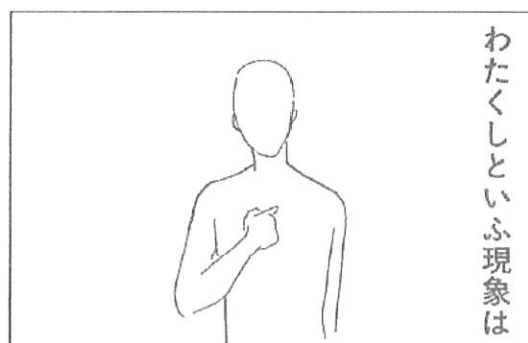


裏

詩は、動作（撫でる、頬に当てる）や情景描写のあるものを選ぶ。詩をことばで読んだ時のイメージよりも、手話を通すことで自分の想像を超えて伝わってくるような体験をしてほしい。

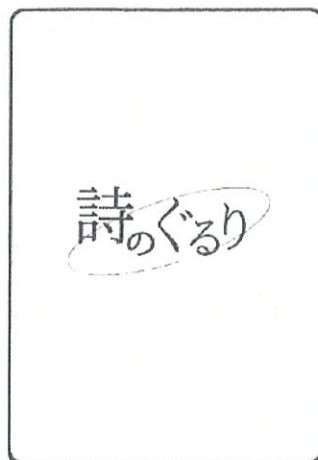
手話への翻訳は、子どもや一般の方に向けて絵本の読み聞かせなどを行うNPO法人しゅわえもんに依頼する。手話の動画を撮影してもらい、詩のぐるりYouTubeに限定公開でアップロードする。店舗での開催期間終了後は全体公開にし、誰でも見れるようにする。

詩の動画イメージ



手話をしている横に、手話になっている部分の詩を横に表示。手話が進むごとに表示も切り替わっていく。

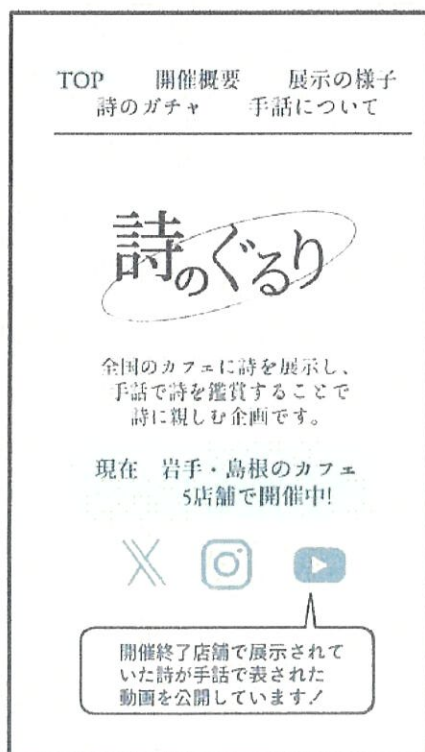
ノベルティ



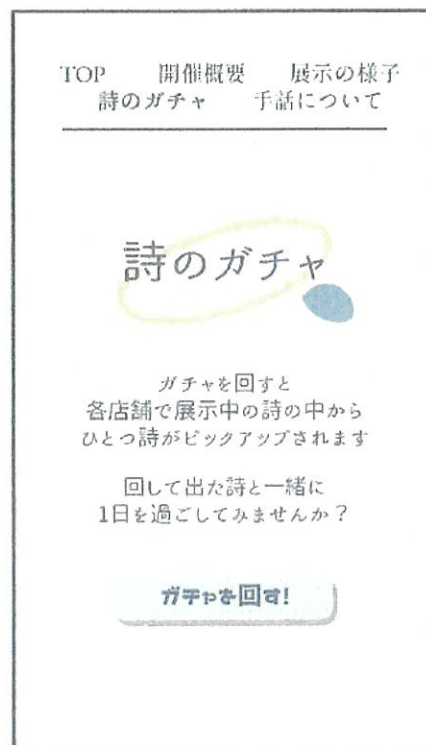
スマホケースに挟める
サイズにする

→スマホケースに挟む・財布に
入れるなど、詩を身近に置ける
ようにする。

ウェブサイトイメージ



- ・TOP…概要、開催中の都道府県、各種SNSのリンクを記載。
- ・開催概要…開催都道府県、カフェの場所、期間を記載。
- ・展示の様子…展示中のカフェ店内の写真を数枚掲示。
- ・手話について…手話を行う団体について紹介。



- ・詩のガチャ…展示されている詩から詩がひとつ読めるガチャ。
1日1回限定。
出た詩をSNSへ共有できるようにし、多くの人に興味を持ってもらう。

展示例1

場所 光原社 可不館 〒020-0063 岩手県盛岡市材木町2-18 光原社本店内

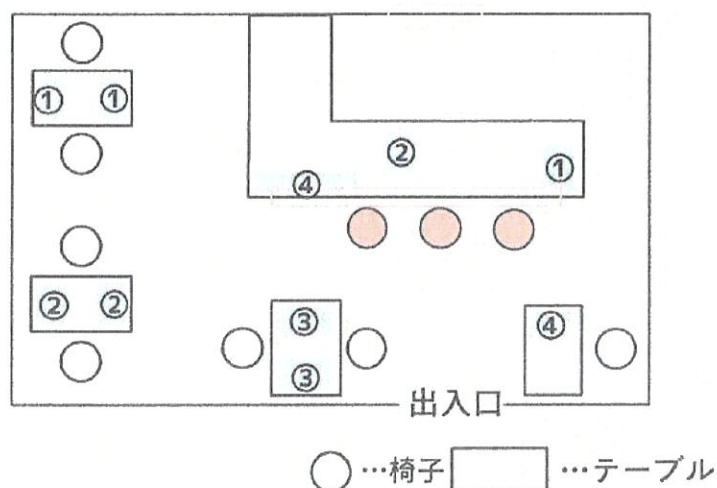
宮沢賢治生前唯一の童話集「注文の多い料理店」を刊行した会社光原社のカフェ。

→宮沢賢治の詩を店内に展示。

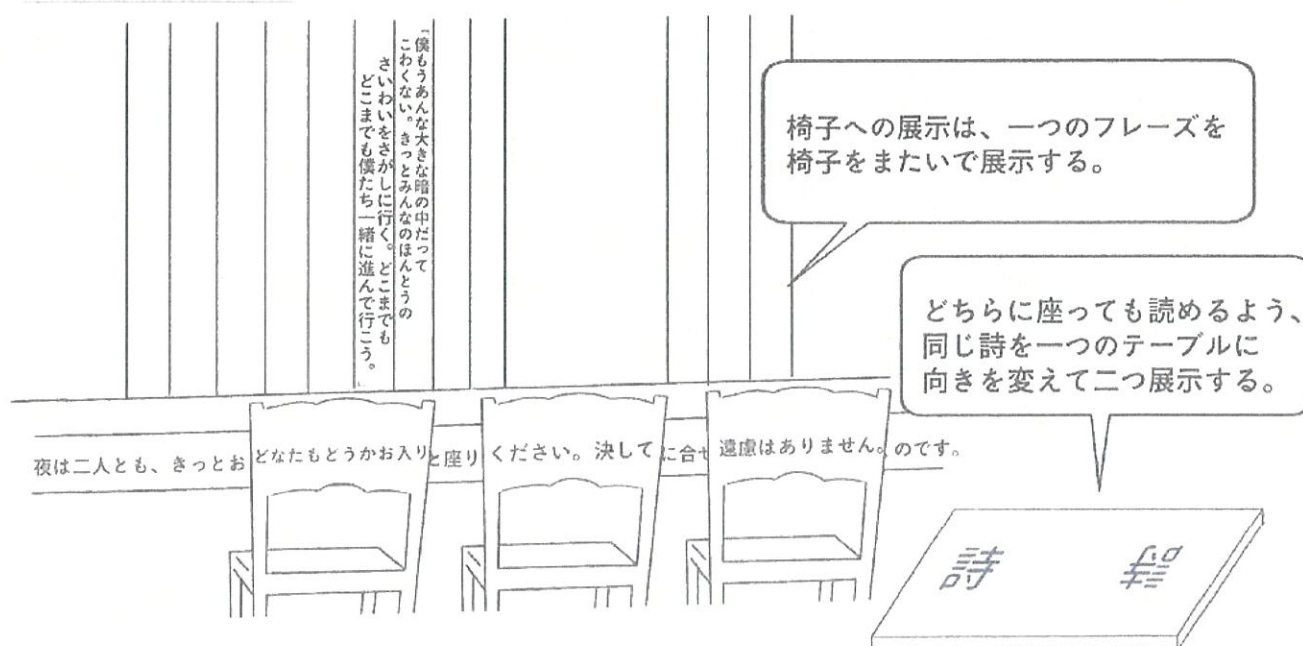
店内イメージ

青色の箇所には詩を展示する。

ピンクの箇所には賢治の童話の一部のフレーズを展示する。



展示イメージ



展示する詩

○タイトル（出典） 本文

① 林と思想(春と修羅)

そら、ね、ごらん
むこうに霧にぬれている
葎のかたちのちいさな林があるだろう
あすこのとこへ
わたしのかんがえが
ずいぶんはやく流れて行って
みんな
溶け込んでいるのだよ
ここいらはふきの花でいっぱいだ

② 松の針(春と修羅)

さつきのみぞれをとつてきた
あのきれいな松のえだよ
おお、おまへはまるでとびつくように
そのみどりの葉にあつい頬をあてる
そんな植物性の青い針のなかに
はげしく針を刺させることは
むさぼるやうにさえすることは
どんなにわたしたちをおどろかすことか
そんなにまでおまへは林へ行きたかつたのだ
おまへがあんなにねつに燃され
あせやいたみでもだえてゐるとき
わたくしは日のてるところでたのしくはたらいたり
ほかのひとのことをかんがえながら森を歩いてゐた
(ああいい さつぱりした
まるで林のながさ来たようだ)
鳥のやうに栗鼠のやうに
おまへは林をしたつてゐた
どんなにわたしがうらやましかつたらう
ああけふのうちにとほくへさろうとするいもうとよ
ほんたうのおまへはひとりでいかうとするか
わたしにいつしよに行けとたのんでくれ
泣いてわたしにさう言ってくれ
おまへの頬の けれども
なんといふけふの美しさよ
わたしは緑のかやのうへにも
この新鮮な松の枝をおかう
今に雫もおちるだらうし
そら
さわやかな
terpeneの匂いもするだらう

③ 屈折率(春と修羅)

七つ森のこっちのひとつが
水の中よりもっと明るく
そしてたいへん巨きいのに
わたくしはでこぼこ凍ったみちをふみ
このでこぼこの雪をふみ
向こふの縮れた亜鉛の雲へ
陰気な郵便脚夫のやうに
(またアラツデイン 洋燈とり)
急がなければならないのか

④ 盛岡市出身・在住の抽象画、
詩を制作する上野あづさに
カフェ光原社をテーマとした詩作を
依頼、展示。

詩のメニュー

詩のメニュー 光原社 可不館

QRコードを読み取ると、店内に展示されている詩が
手話で表現された動画を視聴できます。
ぜひ目の前の詩を手話で鑑賞し、新しい詩の発見を
お楽しみください。

1. 林と思想 宮沢賢治 春と修羅より



手話翻訳：〇〇

2. 松の針 宮沢賢治 春と修羅より



手話翻訳：〇〇

3. 屈折率 宮沢賢治 春と修羅より



手話翻訳：〇〇

4. 〇〇 上野あづさ 書き下ろし



手話翻訳：〇〇

ノベルティ ④のノベルティも制作する。

①



②



③



展示例2

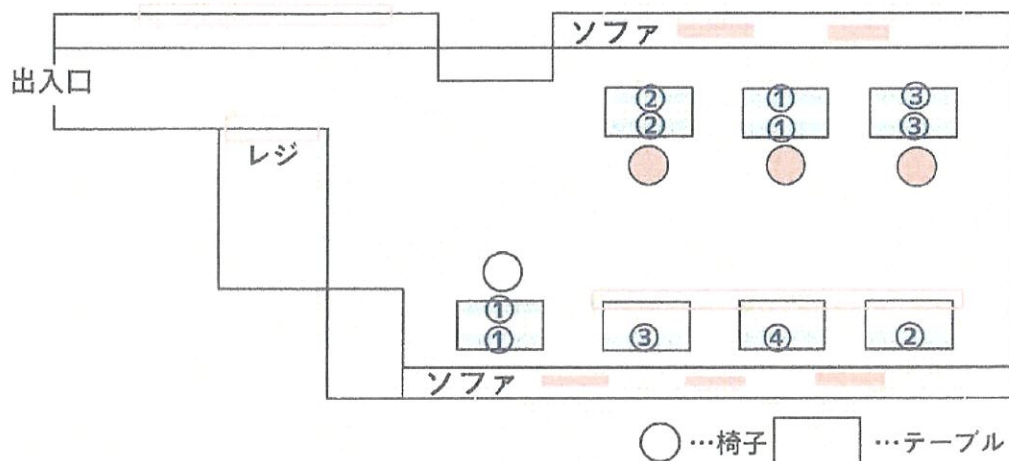
場所 羅針盤 〒020-0871岩手県盛岡市中ノ橋通1-4-15

オーナーがかつて自分の感情を咀嚼し、思考を深め、息を整える大切な場であった元のカフェ「六分儀」の役割を継ぐように営んでいるカフェ。店名は人生の羅針盤のような存在でありますようにという思いから。

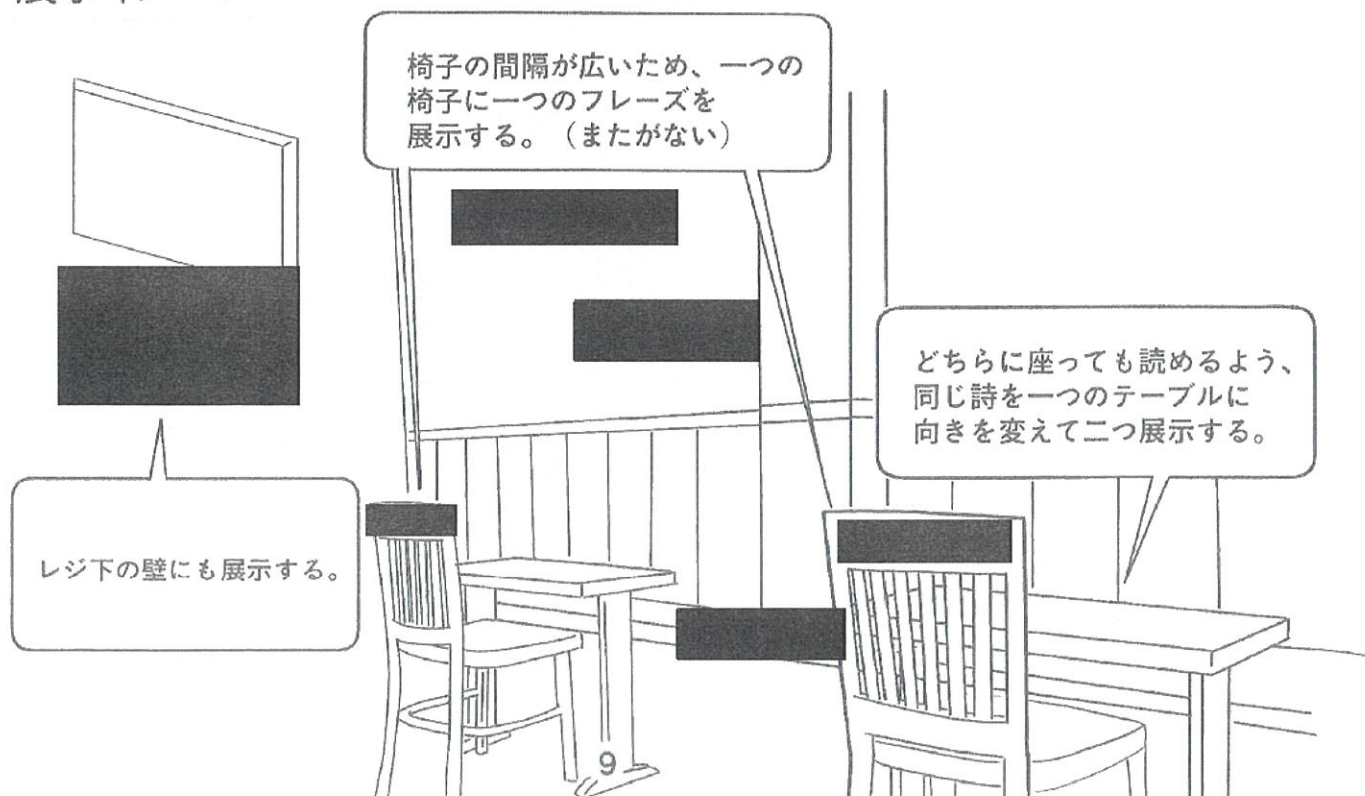
→生きることについての詩を展示。

店内イメージ

青色の箇所には詩を展示する。ピンクの箇所には詩の一部を展示。



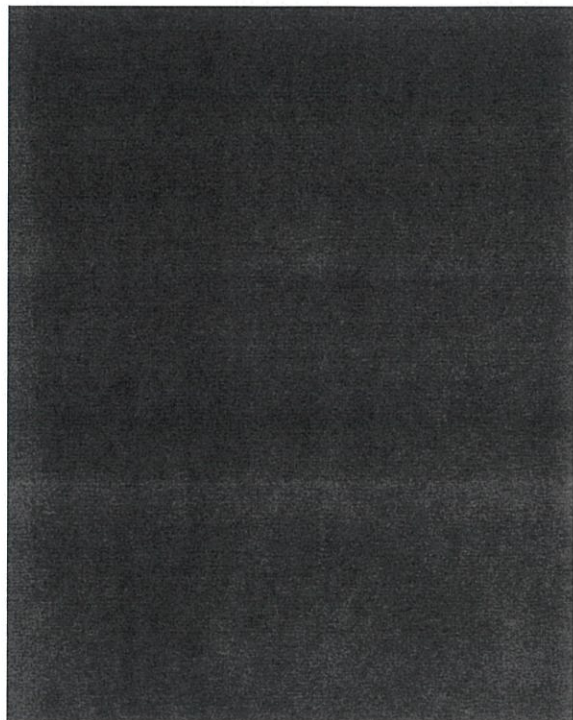
展示イメージ



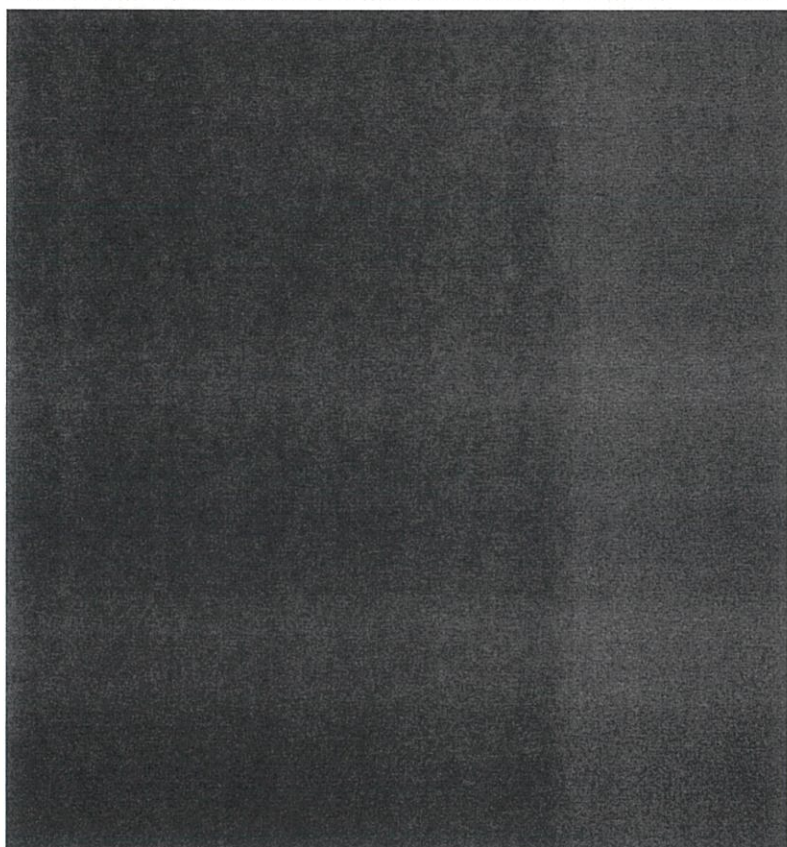
展示する詩

○タイトル/作者名（出典）
本文

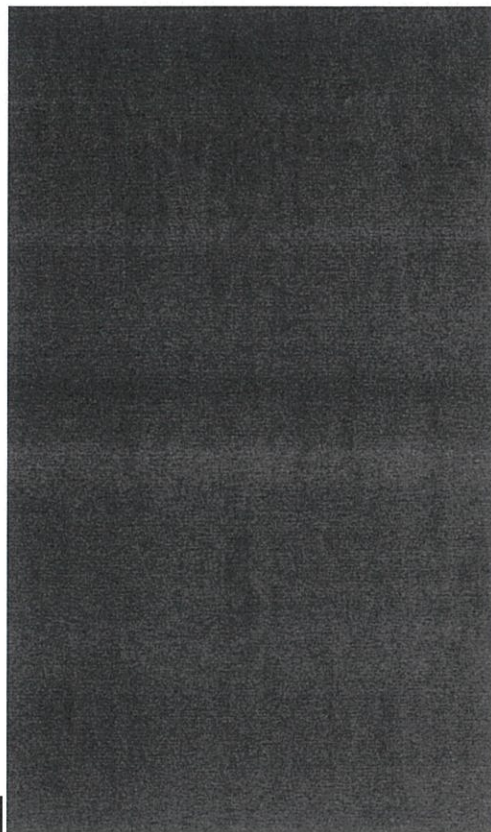
① 形式/夜 遼旅（之）



② 光の百合宇宙/星乃 真呂夢（劇詩 エーテルの風）



③ 目を閉じて、瞼に感じる熱は。
/羽島 貝（鉛の心臓）



④ 盛岡市出身の詩人城戸朱理に
カフェ・ロー針盤をテーマとした詩作を
依頼、展示。

詩のメニュー

詩のメニュー

羅針盤

QRコードを読み取ると、店内に展示されている詩が
手話で表現された動画を視聴できます。
ぜひ目の前の詩を手話で鑑賞し、新しい詩の発見を
お楽しみください。

1.形式 夜遼旅 之より



手話翻訳：〇〇

2.光の百合宇宙 星乃 真呂夢 劇詩 エーテルの風より



手話翻訳：〇〇

3.目を閉じて、臉に感じる熱は。 羽島 貝 鉛の心臓より



手話翻訳：〇〇

4.〇〇 城戸朱理 書き下ろし



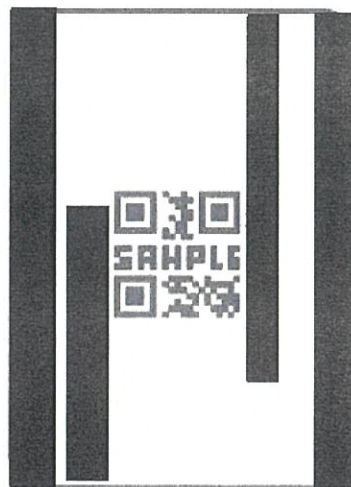
手話翻訳：〇〇

ノベルティ ④のノベルティも制作する。

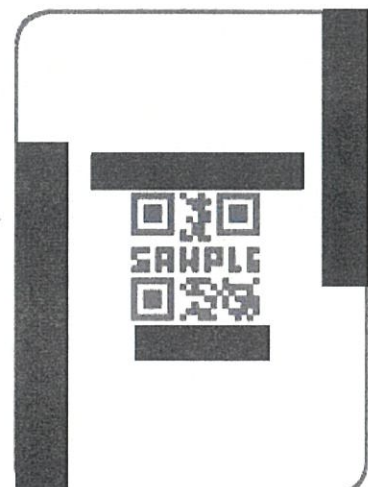
①



②



③



参考

山野浩一（2017）宮沢賢治コレクション6 春と修羅：詩I. 筑摩書房.

鈴木久佐雄・くにさだきみ・佐相憲一・匝久津歩編（2014）
生きぬくための詩68人集：死を超えてを促すために. コールサック社.

阿部公彦（2014）詩的思考のめざめ：心と言葉にほんとうは起きていること.
東京大学出版会.

斉藤道雄（1999）もうひとつの手話：ろう者の豊かな世界. 晶文社.

光原社 光原社のあゆみ

<https://morioka-kogensya.sakura.ne.jp/sub1.html>（参照2024/10/25）

蕪木 羅針盤

<http://kabukiyusuke.com/access/>（参照2024/10/25）